

社會醫學並統計

伊國ニ於ケル結核撲滅運動ノ現況

醫學博士 遠 藤 繁 清

本稿ハ一九三〇年二月發表ニナツタ最新ノ統計材料ヲ在ローマ下位春吉教授ガ特ニ翻譯シテ送附セラレタモノ、一テ、我國ノ結核事業ニ對スル好資料ト信ズル。之ヲ余ガサキニ紹介シタ處ノ「ムッソリニ政府ノ對結核戰」ノ續篇ノ意味ヲ讀マル、コトヲ希望スル。
猶、下位教授ノ御好意ニ對シ茲ニ謹テ感謝ノ意ヲ表スル。

伊國ニ於ケル對結核運動ハ初メ民間ニ自發的ニ興サレタノデアルガ世界大戰中及ビ其ノ直後ヨリ政府ニ於テ多大ノ援助ヲ與ヘタ爲ニ他ノ諸國ニ比シテ急速ニ發達シテ大規模ノ社會事業ト成ツタノデアル。

ムッソリニ政府成立ノ翌年、即チ一九二三年ニ初メテ結核撲滅事業ニ統一アル組織ヲ強制的ニ形成セシムル法規ヲ發シ、更ニ一九二七年ニハ在來ノ機關ノ統制ノミニ止マラズ、進デコノ事業ヲイタリヤ全國ニ強制的ニ組織セシメ、各縣ニハ必ず一個ノ對結核組合 (Consorzio Antituberculare) ヲ設置セシメタ。コノ組合ハソノ縣ノ縣廳、縣内全部ノ市町間及ビ縣内所在ノスベテノ結核療養ニ關係アル團體ヨリ成リ、カクテ縣内ノ結核撲滅運動ノ中心トナツテ、指揮、統制、完成及ビ他縣トノ連絡ノ任ニ當ル事トナツタ。

一九二八年ニハ社會保險ノ一トシテ、結核保險法ガ制定サレ公共機關及ビ工場ノ労働者ニ之ヲ強制シ、一九二九年ハ實ニソノ實施第一年デアツタ。

今イタリヤニ於ケル結核撲滅事業ノ實行機關ヲ列舉シテ見ルト次ノ通りデアル。

(イ) 陸軍

結核ニ罹ツタ軍人及ビ虚弱ナル徵兵適齡ノ壯丁ニ對シテ、

(ロ) 國民安寧義勇軍 *Milizia Volontaria Sicurezza Nazionale* (M. V. S. N.)

前項ト同一ノ二ツノ目的デ、

(ハ) 廢兵國民事業 *Opera Nazionale Invalidi di Guerra* (O. N. I. G.)

結核ニ罹ツタ廢兵及ビソノ子女ノ爲メニ

(ニ) 戰死軍人遺兒國民事業 *Opera Nazionale Orfani di Guerra* (O. N. O. G.)

(ホ) 母性兒童保護國民事業 *Opera Nazionale Protezione Maternita Infanzia* (O. N. P. M. I.)

一般國民ノ結核患者及ビソノ子女ノタメニ

(ヘ) 伊國赤十字社

一般國民ノ結核患者及ビソノ子女ノ爲メニ

(ト) 各地ノ慈善團體及ビ豫防機關

スベテノ是等ノ結核豫防及ビ療養ハ對結核各縣組合ノ事業ヲ完全ナラシメル爲ノ補佐ノ事業ニ過ギズ、是等ト各縣組合ノ事業トガ合一シテ全國ノ結核撲滅運動ノ全部ヲ組織スルモノデアル。

次ニ掲グル統計ハ前記ノ諸機關ガ一九二八年及ビ一九二九年ニ於イテ結核ノ豫防及ビ療養ノ爲ニナシタル事業ノ成績デアツテ、一九二九年度ノ統計ハ未ダ完全ニ調査ノ出來テキナイ分モアル。

第一 對結核各縣組合

○經費

社會醫學統計

	一九二八年	一九二九年
實際ノ收入	五八、一六三、〇四一「リレ」	六三、三七五、〇三三「リレ」
結核診療所 Dispensari Antitubercolari ノ經費	八、五二六、四〇〇「リレ」	一三、〇五七、四〇〇「リレ」
病院療養院 Sanatori ソノ他ニ患者收容ノ費用	一三、三二四、〇五七「リレ」	二七、九五八、一〇〇「リレ」
結核療養ノ爲ニ病院其他ノ機關新設ノタメノ資金	一五、七六二、〇四〇「リレ」	一一、二六六、〇四一「リレ」

○患者ノ救済ヲ受ケタル數

	一九二八年	一九二九年
病院ニ	二、三九六	三、二八八
療養院ニ	一、三四四	四、一七八
特殊病院ニ	一、一六二	三、四三〇
病後療養院ニ	一五九	二二八
ソノ他ノ療養所ニ	一〇七	一一三三
計	五、一六八	一三、四六三

○豫防院

收容シタル兒童	九〇〇人	一、三六九人
右二項 總計	六、〇六八	一四、八三二

第二 結核保險

結核保險實施ノ第一年タル一九二九年一月ヨリ十二月末マデニ社會保險資金局 Cassa Nazionale Assicurazioni Sociali ガ療養ヲ與ヘタル數

(一) 被保險者

	絶對數	ノベ日數
診療所ニテ治療セシ患者	三、七一一	四三八、九〇六

家庭ニテ治療セシ患者
療養機關ニ收容セシ患者

計

三、〇九六八
七、〇二三人
一三、八三〇人

三〇七、六〇八日
六二〇、二〇七日
一、三六六、七二一日

(二) 被保險者ノ家族

診療所ニテ治療セシ患者
家庭ニテ治療セシ患者
療養機關ニ收容セシ患者

計
總計

一、一三七人
一、一一四人
二、二八三人
四、五三四人
一八、三六四人

一三〇、三〇三日
一一九、四九〇日
二二四、四二九日
四六四、二二二日
一、八三〇、九四三日

(三) 被保險者ノ家族ヘノ手當支給

三、五二三家族。一、八九二、五五六、〇五「リレ」。

(四) 同資金局ガ一九二九年中ニ結核豫防ノ爲ニ與ヘタル他ノ救濟事業

乳兒アル母ニ對スル保健相談所

一七ヶ所

乳兒ヲ有スル母ヲ治療シタルコト

九、七五三人

療養轉地所ニ收容シタル母

三四四人

(五) 同資金局所有ノ病後療養院 (Convalescenziari)

收容患者數

一、九九九人

ノベ日數

四二、二五四日

(六) 同資金局所有ノ温泉地療養所及ビ湖上療養所

收容患者數

三、七九四人

ノベ日數

五六、二九三日



第三 陸軍

(一) 肺結核及ビ外科結核ニ罹レル軍人

療養ヲ與ヘタル患者ノベ日數	一九二八年 五二二人	一九二九年 六一二人
(二) 徵兵適齡ノ壯丁中虛弱者ノ結核豫防院ニ收容シタル者	七五三六二日	五九三九七日

療養ヲ與ヘタル者ノベ日數	一九二八年 九四九人	一九二九年 一、二五人
	三七九二〇日	四五、〇〇〇日

第四 國民安寧義勇軍ノ結核療養

(一) 結核患者ニ與ヘタル療養

療養機關ニ收容シタル患者	一九二八年 一五五人	一九二九年 三〇人
療養ノ費用	二〇〇、〇〇〇「リレ」餘	二五〇、〇〇〇「リレ」餘
國民安寧義勇軍ノ社會救濟部ヨリ前記ノ收容患者ノ家族ニ與ヘタル手當	四〇、六〇〇「リレ」	一五、〇〇〇「リレ」

第五 廢兵國民事業ノ結核療養(一九二九年度)

(一) 療養院 Sanatori 又ハ特設轉地所ニ收容シタル結核患者數	一一、一五二人
治療ノベ日數	一〇四、一六五日
經費	三、二六八、一七〇「リレ」

(一) 病院ニ收容シタル患者

治療ノベ日數

一、五七八人
三三、〇六一日

經費

七〇〇、〇〇〇「リレ」

(二) 診療所ニテ治療ヲ與ヘタル經費

二、〇七七、〇〇〇「リレ」

(三) 廢兵ノ子女ヲ結核豫防轉地所ニ收容シタル數

二〇〇人

ソノ經費

七一、〇〇〇「リレ」

以上四項ノ總括

治療患者

三、〇三〇人

經費

六、一一六、一七〇「リレ」

ナホ廢兵國民事業ハ本年度ニ於テ同會ノ爲ニ自己所有ノ療養院 Sanatori 三ヶ所ヲ建設シタ。

第六 戰死軍人遺國民事業ノ結核療養(一九二九年度)

治療ヲ與ヘタル肺結核患者

約四〇〇人

病院療養院ソノ他ニ收容シタル經費

約一、五〇〇、〇〇〇「リレ」

骨結核淋巴線結核ソノ他ノ患者

一八〇人

豫防院ニ收容シタル患者

三五〇人

第七 母性兒童保護國民事業ノ結核療養(一九二八年度)

六ヶ月間ニ互リ豫防ノタメ療養ヲ與ヘタル兒童數

五、八〇〇人

ソノ總經費

約九、〇〇〇、〇〇〇「リレ」

第八 伊國赤十字ノ結核療養（一九二八年度）

(一) 療養院 Sanatori ニ收容シタル者

一、八八九人

治療ノベ日數

二〇四、〇四五日

經費

五、二四〇、七一四「リレ」三〇〇

(二) 豫防院 Prentori ニ收容シタルモノ

九〇三人

治療日ノベ日數

一八六、二三二日

經費

九九七、三一〇「リレ」五〇〇

第九 前記諸機關ニヨリテ結核療養ノタメニナサレタル事業ノ通計

(一) 結核診療所ノ數

二四二ヶ所

(二) 療養院ノ數

三七ヶ所

ソノ寢臺數

二、八九一ヶ

收容シタル患者

七、二五一

(三) 肺結核ノミノタメノ病院又ハ病院ノ一區

一八三ヶ所

ソノ寢臺數

九、八六四ヶ

收容シタル患者

二八、七一二

(四) 外科結核ノ爲メノ病院又ハ病院ノ一區

三五ヶ所

ソノ寢臺數

五、〇四〇ヶ

收容シタル患者

二一、二〇〇人

(イ) 結核患者ノタメノ療養院及ビ病院

二五五ヶ所

ソノ寢臺數

一七、七九五ヶ

收容シタル患者

五七、一六三人

(ロ) 結核豫防院

六八ヶ所

ソノ寢臺數

五、一九三ヶ

收容シタル患者

一三、六七三人

遠藤附記

イタリヤテ目下非常ニ努力シツ、アル虛弱兒小學校ノ事業モ亦、結核豫防上多大ノ效果ガアツテ、「プレベントリウム」ノ一種トモ見ラレルノデアアルガ、本稿ノ數字ニハ之ヲ含シテ居ラヌカラ、其ノ御積リテ御覽ヲ乞フ。

抄録

結核専門雜誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose, Bd. 73,

H. 3, 1929.

1、透過光線ニヨル肋膜癒著ニ就テ

K. Heine

肋膜癒著ハ單ナル投射光線ニテハ熟練セル者ト雖モ之ヲ良ク見ルコト困難ナリ、殊ニ血管ノ索條中ニ存スルヲ見出スコト困難ナリ即之ヲ透過光線ニヨリテ始メテ見出スコトヲ得 (Cora, Jacobsens, Maurer) 又透射光線ニヨリテ速カニ焼切り得ル如キ最モ薄ク且ツ内容ナキ索條ノ部分ヲ良ク認ムルコトヲ得、血管終末ヲモ認メ得、又索條中ノ空洞存在ヲ亦、索條重複セル中ノ索條浸出液ニ對スル空洞抽出及ビ肋膜抽出ノ區別ヲモナシ得、又透過光線ヲ投射光線ト混合シテ用フル時ハ一層ノ效果ヲ得ベシト。(太田抄)

2、横隔膜神經捻除術ノ效果働機ニ就テノ

臨牀補遺

A. Sonnenfeld.

著者ハ横隔膜捻除術ノ效果ヲ賞シ、一側性肺結核ニ横隔膜捻除術ト人工氣胸術ヲ併用スル時ハ永ク存在スル横隔膜癆瘵ニモ拘ラズ後ノ病竈發生ニ對スル他側ノ壓縮ニ良好ナル結果ヲ齎スト又兩側性結核ニ於テ一側ハ下部ニ病竈ノ存スル場合ハ一方ニ横隔膜捻除ヲ一方ニ人工氣胸ヲ施スコトヲ得ト、患者四

例ニ就テ實驗セリ。(太田抄)

3、肺結核殊ニ老人性結核ノ統計的所見

N. Nordmeyer.

一九二一年 Freiburg ノ病理教室ニテナセル Schimp, Aschoff 及シ Puhl ノ共同研究ニヨル一二〇例ノ所見例ヲ報告ニヨリコノ材料トセル統計ナリ、著者ハ一般ニ結核ノ發生年齢及ビ第一次感染、第二次感染ノ時期等ニ關シ病理學者ト臨牀學者トノ間ニ非常ナル差異アルコト及ビコノ統計ナルモノガ落入リ易キ缺點等ニ就テ記載シコノ注意ノ下ニ實驗セリト、然シテ解剖的研究ニテハ結核ノ死亡率ノ最高位ニアルハ Naegeli, Birkhardt, Schimp, 等ノモノト同ジク二五—三〇歳ノ間ナリ然シテ高齢ニナルニ至リテ漸次ニ下降セリ、然シテ此二五—三〇歳ノ死亡率表ヲ見ルニ是等ハコノ曲線ガ全ク不易ニナル如キ高齢者ニ至リテモ存スル如キ全ク慢性的漸進的結核ナリ、治療的傾向ヲ有スル再感染ノモノハ一五—六五歳ノ間ニ見ラレ年ト共ニ増加セリ。即之ニヨレバ即外的感染ハ一五—六五歳迄ノ間ニアリト云ヒ得ベシ、又年齢ノ高キ部分ノ者ガ多ク外的感染ニヨル臨牀的現象ヲ呈スルモノ多キニ拘ラズ四五歳ヨリ高齢ニ於テ迄、初感染期ノ後現象ヲ見ル、即チ此第一位ハ淋巴腺病竈ニヨルモノニシテ即チ淋巴腺結核(六九%)ナリ、第二位ハ獨立性肺結核(三二%)ナリ、第三位ハ老年者ノ慢性肺結核(二〇%)ナリ、然シテ之ニ有スル治療性結核性再感染ナルモノハ淋巴腺竈ノ新破開ナラン故ニ内的淋巴腺性再感染ヲモ否定シ得ズト。(太田抄)

4、血液像及局所的血液像ト結核感染病竈ト

ノ相互關係ニ就テ

著者ハ局所の血液像ト一般血液像トガ或ル傳染性疾患即チ結核ノ如キモノニ於テハ等シカラザルトノ説ヲ述ベ之ニヨリテ從來ノ如ク一般血液像殊ニ淋巴球ガ結核ノ病狀ヲソノマ、示スモノニ非ズシテ之ニハ局所の血液像ト一般の血液像トノ間ニ如何ナル差異ノ存スルカヲ明カニスルヲ要ストナン家兎ヲ用ヒテツツ Normergie ト Allergie ノ二組ニ分ツ爲メニ之ニ一方ニ第一次感染ヲオコサシム。次ニ兩組ノモノニ角膜ニ感染ヲオコサシメテコノ角膜病竈周圍ノ血液像ヲ作り又耳ヨリ採リシ血液像トノ間ノ特ニ淋巴球ニ就テ研究セリ、初メ四十五頭ノ家兎ノ血液像ヲ檢スルニ家兎ニテハ一定ノ血液細胞ノ比率ヲ定メ難シト又一般感染試験ノ經過ハ使用セル菌株ノ毒性ニ平行セリ、第一次感染二次感染ニヨル角膜膿瘍ノ經過ハ菌株ノ毒性ノ強弱ニヨリテ二種アリ、進行性ト治癒性トナリ、然シテ之ヲ感染ヨリ發病迄ノ潜伏期ノ有無ニ關スル如シ、又局所の血液像所見ハ比率上一般血液像ト大體一致ヲ見ルモ此一致ハ再感染ニ於テハ初感染ニ於ケルヨリモ著明ニアラハル。(太田抄)

5、肺結核ニ就テノ末梢及病竈周圍ニ於ケル血液像ノ研究

T. Sternberg.

最近血液ノ分類像ノ價值及ビ變化ガ問題トナリ之ハ即チ血液像ハ血球生成機ノ刺戟及ビ臟器ノ平衡障礙ニ就テノ最モ敏感ナル指示器ヲナスガ故ナリ、即チ血液生成中樞ノ刺戟ハ直チニ血液像ニ特殊ノ變化ヲ來ス、然シテ結核ニ於テソノ經過ガ進行性ナルカ治癒性ナルカニヨリテ淋巴球及中性嗜好細胞ノ増減ヲ示スコトハ一般ニ認ムル處ナリ。然ルニ結核ハ、ソノ周圍ニ多量ノ淋巴

球ヲ集合セシムルモノナレバ結核ニ對スル防壁ニ於テ益、増加スル理ナリ。コノ理由ニヨリ五例ノ患者ニ就テビルク氏反應ヲオコサセ末梢性血液像ハビルク前ト後ニ局所の血液像ハビルク丘疹ノ血液像ヲ作レリ之ヲ檢スルニ輕症ナルモノハ淋巴球ガ局所像ニ於テ末梢像ニ比シテ著シク増加セリ、之ト反對ニ進行性ナルモノハ局所の血液像ニ淋巴球ノ減少著シト、之ハ又治療上殊ニ類脂肪體治療ノ場合ニソノ豫後ヲ定ムルニ良シト。(太田抄)

6、結核ニ對スル人工免疫ノ實驗的成績第三報(「ヘモリゲン」試驗)

P. Kallio's E. Bajza

本誌七一卷ニ於テ人工免疫ニ對スル吾人ノ方法ヲ發表セリ、即チ皮内塗擦法ヲ家兎及ビ海狸ニ於テ行ヒ大體ニ於テ著者ノ「アンチゲン」ノ皮内療法ニヨリテ免疫物質ヲ生ジ得。(太田抄)

7、肺結核ノ赤沈反應ニ及ホス非特異性脂肪體治療ノ效果ニ就テ

Ernst. Paulsen.

榮養ノ必須補給物質トシテ生物學的ニ大ニ意義ヲ有スル脂肪體ノ意義ハ近年 Much u. DeJke 等ニヨリテ種々追試セラレタリ、著者ハ四例ノ患者ニ二日毎ニ一回、「ガメラン」ノ皮内塗擦ヲ行ヒ二十四週ニ及ベリ。然シテ四週毎ニ一回、赤沈反應ヲ行フ、然シテ輕症ナルモノハ大體ニ於テ皆血球沈降著シカラズ、重症ニ於テハ餘リ良好ナラズ、次ニ二十三例ノ纖維性增殖型、十例ノ浸出型ニテ之等ハ皆「C」ノ三期ノ者ノミニシテ之ガ治療ヲ六ヶ月繼續セリ、然シテ之モ大體ニ於テ增殖型ノモノニ效果多シト。(太田抄)

8. M. Kaplan 氏結核「ワクチン」ヲ以テセル 治療成績

W. Schmidt-Sachsensamm.

M. Kaplan ノ結核菌「ワクチン」ハ菌ノ外分泌毒素ヲ利用セルモノニシテ著者ハ之ヲナル可ク硬化性傾向アル患者ノミニ試験セリ然シテ血液像及ビ赤沈反應、體溫體重等ヲ標準トシテ試験セリ、患者ハ十五例ニシテ¹/₁₀₀₀稀釋度ノモノ¹/₁₀延ヲ用ヒタリ、然シテコノ結果ハ數例ニ何等ノ影響ナキモノヲ認メ其中一例ニ一過性ニ稍々良好ナリシノミ他ハ皆惡障碍ヲ殘セリ。

(太田抄)

9. Silicose ト結核

W. Mascher.

著者ハ一九二九年夏スウェーデンノ Dalstrand ニ於テ石英礦ノ勞動者ヲ三十ニ例ニ就テ診察セリ、此三十二例ハ皆著明ナル石英粉ヲ肺臟内ニ有スルモノニシテ之ヲ非病的及ビ一期、二期三期ト分チテ種々ノ見地ヨリ之ヲ研究シ、ソノ内、一二例ニX線ニテ舊キカ又ハ新シキ結核病竈ヲ發見セリ、然シ、之ニテ結核經過ニ石英粉ノ影響ハ全クミトメラレズト、五例ノ著シキ石英沈著ト結核トアルモノヲ發見セルモ二例ハ病理、解剖的ニハ全ク結核病竈ヲ見ザリシト。

(太田抄)

10. 肺結核ノ病理型體學的變化ノ臨牀的意義

W. Bronkhorst.

著者ハ現今流行ハレンシ Ranke ノ結核分類ニ就テ Hubschmann, Nicol, Baitz, Ke, Redeker 諸氏ノ批判ヲ述ヘ殊ニ Redeker ノ新說ヲ主トシテ自身ノ說ヲ

述ベタリ。然シテ著者ハ之ヲ二種ニ分テリ即 Primitive Phase ト alternative phase トニ分テリ、之ハ組織反應ノ二種即チ(浸出性破壊性及ビ増殖性建設性)ニ於ケルガ如ク肺結核ノ病理型體學的變化ノ臨牀的判定ノ根定ヲナスモノナリ、然シテ Primitive Phase トハ Phase ノ第一期、第二期ニシテ Alt. Phase ハ第三期ナリ、此病期ハ結核ノ生成期トシテ適當ナルモノニシテ決シテ可逆シ得ザルモノナリ、然モ浸出型増殖型組織反應ハ結核ノ根本的ナル別型トシテハ不適當ナリ、吾人ハ今出來得ルカギリ單簡ナル模型的ナ分類ヲ要求シツツアリ、然シテ完全ナル肺結核ノ臨牀的診斷ハ次ノ如シト即チ Phase ノ決定、定量的、定性的ナル解剖上ノ診斷及ビ一般臨牀上ノ活動性指示ノ判定ナリ。(太田抄)

11. 結核治療上増量的「ヴァイタミン」施與ノ意義ニ關スル動物實驗的研究

W. Pfannenstiel.

此實驗ニ於テ著者ハ結核ノ經過ノ如ク様々ナル意義ヲ有スルモノ、研究ヲ達スル爲ニハ殊ニ比較實驗ヲナス爲ニハ乳兒小兒ニ於ケルガ如ク試驗動物ニテハ一回丈ケノ感染ニテハ不充分ナリ。即チ Jöten ガ前ニ發表セル如ク外的影響ノ差異及ビ實驗的結核治療ノ限度ヲ定ムル爲ニハ動物ヲ有毒性菌ノ感染ノ前ニ(四乃至六週)弱毒性菌ノ吸入又ハ血管注射ニヨリテ處理セザル可ラズ、然ルニ吾人ノ「ヴァイタミン」D (Ergosterin Vigantol) ヲ新動物ニ又ハ免疫動物ニテモ治療上ノ效果ヲモタラス、然シテ「ヴァイタミン」B ノミニテハ充分ナリ、「ヴァイタミン」A ニテハ唯一例ノミ效果アリシノミ。新動物ニテハ「ヴァイタミン」B トD トノ共用ニヨリテ眞果ヲ來ス、「ヴァイタミン」B トD トノ

間ニハ相互關係アルラシ、又「ヴィタミン」Dノ過「ヴィタミン」ノ「セ」ノ危険ハ平常ノ體重制限ニテ惡結果ナリ「ヴィタミン」Bノ過量ハ何等顧慮スルコトナシ。

(太田抄)

12、肺結核及關節「ロイマチス」ト「ヴィタミン」

不足ニ就テ

L. Heumann.

Pallizerノ關節「ロイマチス」ト結核ニ就テノ病理學的相似タルコトヲ説明シ又ソノ症候上ヨリ見ルモ相似タルコト多ク、Romberg, Much, Dejche等ノ説ヲモ説ク、然シテ免疫學的ニハ關節「ロイマチス」ヲ説明スルコトヲ得ズト多クハ「ヴィタミン」欠亡ヨリオコルナランカト。

(太田抄)

13、デンマルクニ於ケル死亡率ノ減退

K. Faber

著者ハ一八八〇年代ト一九〇〇年代、一九二〇年代ノ三時期ニ分チ是等ノ結核死亡率ヲ小兒、青年、老年等年齢別ニ又男女別ニ又田園及ビ都會別ニ算出セリ。然シテコッホガ結核菌ヲ發見セシ以來、直接ノ防疫が進步シソノ結果ノ大ナルモノアルヲ見ルト、然シテコノ間ニ外的感染ノ影響が確カニアリシナランコトヲ論理的ニ推論シ得ルト。

(太田抄)

Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 55, H. 1, 1929.

14、肺結核ノ外科的治療ニ際シテノ其ノ前後

ニ於ケル食餌療法

Adolf Hermannsdorfer.

初期結核ニ於テハ一般的各種療法ニヨリ其ノ治療ヲ期シ得ベキモ、相當進行

抄 録

セル場合ニ於テハ然ラズ、カ、ル例ニテハ外科的治療ニヨラザレバ患者ノ運命ヲ好轉シ得ザルモノナルハ今日既ニ論ナキガ如シ、但シ此レハ一側性ノ場合ニシテ兩側性ナル時ニハ既ニ施ス術ナシトセラル、然リト雖モ若シ一側ノ變化が比較的輕度ニシテ他側ノ外科的加療ニヨル過重ノ機能ニ耐ヘウルニ至ルマデ治療ヲ行ヒタル後ナラバ外科的療法ノ施術ハ不能ナラザルベシ。著者ハ茲ニ於テゲルソン氏食餌療法ヲ行ヒテ其ノ目的ヲ達シタル數例ヲ報告ス、又施術後不長經過ニ傾キシ數例ニ就テハ同食餌療法ヲ行ヒテ經過ヲ長轉センメ得タリトテ夫等ノ詳細ノ記述ヲナシテ同食餌療法ノ價值大ナルヲ云ヘリ。而シテ尙ホ最後ニ附言シテ次ノ如ク云ヘリ。此ノ食餌療法施行ハ非常ニ困難ナルモノニシテ、醫師及ビ其ノ補助者ノ人格的要素ヲ必要トナス、此ノ點著者が既ニ力言セル所ニシテ Giebaerノレープス療養所ニ於ケル本食餌療法ノ著名ノ成績ハ、皮膚結核が特殊的ノモノナル故トナスヨリモ、ムシロ完全ナル科學的信念、コレヲ追試セントスル熱心、理解ヲ以テ醫師、所員、患者ノ努力が混一セシニ歸スベキモノナリ。茲ニ於テ著者ハ近キ將來ニ於テ同様なル客觀的立場ト、眞面目トヲ以テ、コノ食餌療法ヲ肺結核患者ニ追試セントナス學者ノ出現ヲ希フモノナリ。

(佐々抄)

15、腫脹セル氣管枝及ビ縱隔竇淋巴腺ノ打診的檢出ニ就テ

E. Granström.

氣管枝及ビ縱隔竇淋巴腺ノ腫脹が打診ニヨリ檢出サレウルヤ否ヤニ就テハ學者間ノ所信未ダ一定セズ、一九〇六年 V. Koranyiハ脊椎上打診法ヲ此ノ目的ニ提唱シ、又一九〇九年ニハ Kraemerガ肩胛骨間ニ於テ脊椎ニ沿ヒテ存

スル濁音ニ就テノ記載ヲナセリ、爾來今日マテ是等ノ打診法ハ一般的ニ大ニ應用セラル、ニ至リ、Kraemer 氏法ハ主トシテ結核専門醫問ニ於テ、Kraemer 氏法ハ小兒科醫問ニ於テ用ヒラレ居ルナリ。コノ兩法以外ニ數氏ニヨリ氣管枝腺結核ノ證明法提唱セラレオルモ多クハ顧慮ニ値セザルガ如シ。

Kraemer 自身ハ脊椎側濁音ヲ腫大淋巴腺其ノモノニヨリ説明セズ、腫脹ノタメニ惹起セラレタル血液及ビ淋巴ノ鬱積ニ起因スルモノナリト爲ス、シカルニ不拘 Kraemer 氏法ヲ承認スル他ノ學者ハ、肥大淋巴腺其ノモノ、濁音ナリト主張セリ、故ニ腫大淋巴腺ニヨリカ、ル濁音生ズルヤ否ヤハ頗ル問題ニシテ未ダ決定シ居ラザル點ナリトス。著者ガ本研究ヲ起企シタル所以モ亦實ニ茲ニ存スルモノニシテ、著者ハ本問題解決ニ向ヒ、I、X線検査ニヨリ、II、食道ニ「ゴム」球ヲ插入スル手段ニヨリ、III、死體ニ就テ、精細ナル、シカモ理論的ナル立場ヨリ研究ヲ行ヒ、其ノ結果ト先人ノ所説トヲ綜合シテ次ノ如キ結論ニ達シ居レルナリ。

I、X線検査ニ依ルニ寫眞ニ現ハレタル氣管枝淋巴腺ノ大サト、肩胛骨間又ハ脊柱上ニテ見ラル、濁音ノ大サ及ビ程度トハ平行セズ。II、食道ノ氣管枝分枝部ニ相當スル處マテ插入シ七〇珩ノ液體ヲ充シタル「ゴム」球ハ脊柱上ニモ亦肩胛骨間ニ於テモ何等ノ濁音ヲ起サズ、III、結核ニテ死亡セル死體ニ就テ七〇—一〇〇珩ノ「アガール」ヲ肺門部ニ注入シタルモノニ於テ見ルモ Kraemer 又ハ Koranyi 氏打診法ハ何等ノ所見モ示サズ、IV、一—三歳ノ小兒死體ニ就テ「ゴム」球ヲ肺門部ノ高サマテ食道ニ插入シ五〇珩ノ水ヲ充スモ打診上何等ノ變化現ハレズ、故ニ打診ニヨリテハ食道中ノ「ゴム」球ガ空實ノ有無ハ定メ得ザルモノナリ。

氣管氣管枝淋巴腺ガカ、ル大サマテ腫大ナスコトハ非常ニ稀レナルモノナレ

バ、Kraemer 及ビ Koranyi ノ打診法ノ贊成者ハ前記ノ而モ客觀的方法ヲ用ヒテ、彼等ノ云フ打診法ヲ試驗ナス必要ノ存スルモノナリ。(佐々抄)

16、肺癆性體質ハ外見的ニ特徴ヲ有スルモノナリヤ

Karl Eisenstaedt.

著者ハ本問題ニ關シ先ツ所謂肺癆性體質ニ就テ各學者ノ所説ヲ參酌シテ論述シ、次テ「ビグメントコンプレクション」ト結核トノ關係ニ論及シテ、結局從來一般ニ云ハレタルガ如キ肺癆性體質ヲ外見的ニ定メントナスノ至當ナラザルヲ力言セリ。(佐々抄)

17、橫隔膜神經捻除後ニ於テ反對側ニ見ラレタル濕性肋膜炎

H. Maedel u. O. Lichtwitz.

著者ハ右側性肺癆ノ患者ニ橫隔膜神經捻除ヲ施シタルニ、反對側ニ於テ濕性肋膜炎ガ數週後ニ現ハレタルニ例ニ接シタリ、一例ハ相當高度ノ滲出液ヲ伴ヒ、一例ハ輕度ニシテ何レモ肺疾患ノ經過ニハ殆んど影響ヲ見ザリシナルモカ、ル事實ハ稀有ニ屬シ著者ノ橫隔膜神經捻除例全數二〇〇ナルヲ以テ、僅カニ一%ニ相當スルニ過ギズ。嘗テ文獻ニモ發見シ得ザル例ナルヲ以テ特ニ報告セルモノナリ。(佐々抄)

18、肺結核ト肋膜性素質

Hermann Bergmann.

二十六歳ノ相當進行セル肺所見ヲ有スル婦人患者ガ突然ニ鼻、齒齦、皮下、關節等ニ出血ヲ來シタル例ニ接シタリ。進行セル結核患者ニ出血性素質因ヲ示

セルノ報告ハ未ダコレナキモノナリトテ著者ハ其ノ經過ヲ述ベ、他ノ紫斑病トノ鑑別ヲ行ヒ、本例ハ結核ニ起因セルモノナリト斷ジオレリ。(佐々抄)

19、開放性結核患者ノ生活指數

I. Zadek.

本論文ハ Neuköln-Berlin ノ市立結核相談所ニ於ケル一九二七—一九二八年度ノ業績報告ヲ基トシテ種々結核ト生活狀態トノ關係ヲ論セルモノナリ。

(佐々抄)

The American Review of Tuberculosis. Vol

XXI, No. 3. 1930.

20、急性肺炎下結核ニ對スル潜伏肺炎結核病

因ト臨牀的意義

Bruce H. Douglas and Max Pinner.

Wm. H. Maybury Sanatorium ニ於イテ、著者ハ二百例程ノ觀察ヲシタ。而シテ著者ハ次ノ様ナ結論ヲ得タ。一、滲潤性肺炎下結核ト結節性肺炎結核トヲ區別セントスル試ミハ合理的ナコトデアアル。二、此ノ肺炎下浸潤ノ臨牀的及ビX線の特質ニハ初感染ニ對スル其ノ關係ヤ發病ノ具合ヲ明カニ説明スルモノガナイ。三、結節性肺炎結核ナルモノハ必ズシモ潜伏性デハナイガ兎モ角良性ノモノデ、殆ンド進行性ヲ有シナイコトハ明カデアアル。四、然ルニ肺炎下浸潤ハ通常急性ノモノデ、而モ進行性ノ危險ヲ有ス。五、病理解剖的ニハ肺炎結核ハ結節増殖性デアリ、肺炎下結核ハ急性滲出性デアアル。六、故ニ我々ハコレヲ早期ニ診斷シテ其ノ進行ヲ阻止スルコトニ努メナケルバナラヌ。七、其ノ診斷ノ上ニ於テ重要ナルコトハ、發病ノ急性ナルコト、肺ノ物

理の所見ノ有無、其ノX線像、喀痰ノ入念ナル検査デアアル。本文ニハ十五枚ノX線寫眞ヲ插图シテ居ル。

(伊藤抄)

21、肺結核ノ補助的治療トシテノ齒科

Henry W. Gillett

榮養ノ方面カラ觀ルニ、口腔ノ疾患ハソノ重大ナル役目ヲ有ス。醫師ガ口腔ヲ検査スル際、齒牙、齒齦ノ狀態ニモ大イニ注意シ必要ニ應ジテ齒科的治療ヲ施スベキナリ。特ニ齒槽膿漏ニ就イテハ充分ナ考慮ヲ要ス。(ソノ解剖的變化、臨牀的觀察、治療等ヲ敘述セリ)。

次ニ感染門戸ノ方面ヨリ觀ルニ、齒槽膿漏ヤ齒根膿瘍ハソノ侵入門戸トナリ易イ。從來看却サレタルコノ方面ノ疾患ノ割合ニ多キコトヲ思ヘバ結核患者ノ治療效果ヲ擧ゲルニハ齒科的處置ヲ忽ニスベカラズト。

(伊藤抄)

22、「サノクリジン」中ノ次亞硫酸曹達

Gian Franco Capuano Bergams, Italy.

從來「サノクリジン」ノ藥理學的作用ハ一ニ金ノ存在ニ歸セラレタルモ、ソノ著者ハ次亞硫酸曹達ガ呼吸器ノ腐敗性疾患ニ對シ選擇的ニ作用スルコトヲ觀テ、「サノクリジン」ノ作用ハ、結核菌ト同時ニ存在セル他ノ細菌ニ作用スル次亞硫酸曹達ノ效果ニ依ルコトヲ想ヒ、次亞硫酸曹達ノミヲ以テ結核患者(二期及三期者ニシテ諸他ノ療法ニ效ナカリシ者)十八名ト腐敗性肺炎患者ノ八名ニ就イテ、試行セリ。ソノ結果ヨリ見レバ、著者ハ次亞硫酸曹達ハ結核ニ對シ何等著明ノ治療力ヲ現サズ。又ソレハ、「サノクリジン」ノ普通使用量ニ於ケル副作用ノ原因トナルモノニモアラズ。ソレハ金分子ノ浸透性ヲ増加シ毒力性ヲ減少スル點ニ於テ金鹽ノ應用ニ有力ナル效果ヲ及ボスモノナリト。

23、結核相談所ニ於ケル一般處置トシテノ血球沈降反應

(伊藤抄)

Jacob W. Cutler and Louis Cohen.

一九二五年ヨリ血球沈降反應ヲ結核相談所並ニ、療養所ニ於テ行ツタモノ數百ニ達ス。今日テハ沈降反應ナシテハ結核ノ診斷ハ不完全ナリト思フ。

著者ハ Cutler 氏ノ一耗圖示法ヲ採用セリ。結核相談所ノ患者五〇〇名ノ檢索ノ結果ヨリ觀ルニ、沈降反應ハ肺結核ノ活動性ノ診斷ニハ唯一ノ有力ナル方法ニシテ九四〇ノ確實性ヲ有ス。全身狀態、胸部所見、X線所見ニテ充分ニ諸徴候ヲ備ヘタル例ニ於テ診斷ヲ確立スルニハ沈降反應ハ價値アルモノナリ。

(伊藤抄)

24、結核菌ノ發育上ニ及ボス表面張力ノ影響

Frank B. Cooper, Trudeau, New York.

近年、表面張力ノ影響ニ對スル注意が喚起セラレ、結核菌ノ方面ニモ應用セラレテ、ソノ研究モ數多出テ居ルガ未ダ不明ノ點が多い。著者ハ結核菌發育ニ對スル影響、同時ニ培養中ニ於ケル培養液ノ表面張力ノ變化及ビ皮膜形成ニ對スル影響等ヲ更ニ解明セントシテ實驗セリ。實驗ニハ一人型菌ヲ用ヒ、Proskauer and Beck ノ液體培養基ニ石鹼ノ蓖麻子油溶液ヲ以テ種々ノ割合ニ一定ノ表面張力度(五・八・六―三五・四「ダイン」)ヲ附與セルモノヲ以テ、八週間培養シ、ソノ間三―七日目毎ニ培養液ノ表面張力ヲ測定シツ、菌ノ發育ヲ觀察セリ。表面張力ハ随分動搖スルガPHハ大シテ變化シナイ。

石鹼加培養(表面張力七・二・四ヨリ四九・八「ダイン」ニ低下セル)ニ於テ菌ノ發

育ノ促進ノ影響ハ何等認メラレズ。觀察期間八週間中ニ於ケル表面張力ノ動搖ヲ見ルニ、石鹼不加培地ハ七・二・四ヨリ五四・五「ダイン」低下スルニ反シ、附加培地ニ於テハ一時一定度マテ上昇シ、後五三―五五「ダイン」迄低下ス。(勿論コノ場合非接種培地ヲ對稱トセリ。對稱液ノ表面張力ニハ殆ンド動搖ヲ見ズ)。而シテソノ最後ニボス表面張力ハ液ノ最初ノ張力ノ値ニ關係セズ、何レモ五三―五五「ダイン」ニ降下スルヲ觀タリ。又石鹼ヲ附加スルトニヨツテ培養上、菌ハ殆ンド形態學的變化ヲ被ラズ、唯、石鹼〇四〇附加ノ培地(三五・四「ダイン」)ニ於テノミ菌形稍々小トナレルヲ見タリ。又七・二・四―三五・四「ダイン」ノ間ニ於テハ菌着殖常ニ液ノ表面ニ起リ、皮膜形成モ常態ナリ。

(伊藤抄)

25、結核菌ノ毒力ニ對スル不飽和脂肪酸ノ影響

(I. Platonov, Moscow, Russia.

肝油、肝油曹達(Natrium Morrhutum)、大風子油酸ノ三種ヲ用ヒ、ソノ各々ヲ以テ處理セル結核菌ヲ海狸ニ接種シテ、菌毒力ヲ觀察セルニ、何レノ場合モ、ソノ感染力ノ著シキ減退ヲ見タリ。カクシテ著者ハ不飽和脂肪ハ結核菌ニ對シテ溶菌的ニ作用シ、發育ヲ阻止シ、毒力ヲ減少セシム。又不飽和脂肪ヲ以テ毒力ヲ低下セシメタル結核菌ヲ接種感染セシメタル海狸ニテハ纖維性ノ慢性結核ヲ呈シ再感染ニ對シテハ著シキ抵抗ヲ有スト。

(伊藤抄)

26、「ツベルクリン」中ニ含マル、活性體ノ化學的組成

(一二)種々ノ「ツベルクリン」及「チモシー」

菌蛋白質ノ沈降反應並ニ鑑別

Florence B. Seibert, Chicago.

「ツベルクリン」中ニ含まル、抗原ヲ化學的ニ究明セントシテ、先ツ無蛋白「ツベルクリン」ヨリ次ノ如キ二種ノ蛋白體ヲ作レリ。一、硫酸安門ニテ沈澱サセ、更ニ透析法ニヨツテ硫酸安門ヨリ分離シ、コレヲ適當ニ濃縮セルモノ。二、濾過シテ濃縮セルモノ。兩者ヲ抗原トシテ沈降反應ヲ試行セリ。

(一) 健康ノ海狸一八頭、家兎八頭ニ就イテソノ血清ノ沈降反應ヲ行フニ、該抗原ニ對スル沈降素ヲ見ズ。

(二) 該抗原蛋白體ヲ腹腔内ニ注射シテ免疫シタル動物ニ於テハ、比較的容易ニ沈降素ヲ發生ス。今其ノ沈降原トナル蛋白體ノ性質ヲ檢スルニ、(一) 七〇度ニテ凝固シ、水ニ不溶、但シ少量ノ「アルカリ」ヲ加ヘタル水ニハ溶解シ、再ビ中和スルモ沈澱セザルモノ (Fraction No. 58)。 (二) 醋酸ニヨツテ沈澱シ溶解性前者ニ似タルモノ (Fraction No. 5)。 (三) 非凝固性ニテ、非透析性窒素化合物ヲ含マザルモノ「ビウレット」反應ヲ呈スルモノ (Fraction No. 63)...

(第十二報參照) 第一ト第二ノ物質ハ沈降原トナルモ、第三ノ物質ハ然ラズ第三ノ物質ハ數時間煮沸加熱ヲ受ケタル者ニシテ、舊「ツベルクリン」ノ如ク加熱ニ因ツテ抗原性ヲ失ヘルモノト考ヘラル。

(三) 人型結核菌接種ノ被感染海狸ニ就イテ實驗セルニ、沈降反應ハ強陽性ヲ示ス。コレニ依ツテ見レバ、沈降反應ハ動物結核ノ診斷ニハ役立つモノナリ。

(四) 實驗的結核動物ヲ「ツベルクリン」ニテ處置セルモノ。コレニ於テハ沈降反應ハ著明ナラズ。

(五) 結核人ニ於テ、試行スルニ、五一例中僅カニ六例ノ慢性患者ニ於テ陽性ヲ示スニ過ギズ。從來沈降反應ハ結核ノ診斷ニハ不適當ナリトセラル。更ニ、血清學的ニ、人、牛、鳥型菌及「チモシー」菌ノ鑑別ガ可能ナリヤ否ヤ

ヲ見ントシテ、家兎ニツキ、ソノ各菌ヨリ得タル「ツベルクリン」ヲ注射シテソノ動物ノ血清ノ沈降反應ヲ行フニ、各々ニ特異性アルコトヲ立派ニ證明シ得タリ。 (伊藤抄)

27、實驗的結核動物ニオケル過敏性ノ研究

Ruby M. Bohart, Washington.

生結核菌、化學的の死菌(石炭酸「フクシン」及「エーテル」ニテ殺シタル死菌)加熱死菌、光線照射死菌(照射光線ハ水銀弧燈「ツベルクリン」、諸種結核菌培養基濾過液等各々ヲ「アレルゲン」トシテ、海狸ノ腹腔内ニ注射シ、ソレニ因ツテ生ズル過敏性ヲマンロー氏皮内反應ニ依ツテ檢スルニ「ツベルクリン」及ビ肉汁濾過液ハ反應陰性ヲ示シ、過敏性ヲ發生セシメズ、死菌ノ中化學的方法ニヨル死菌最モ陽性度強ク、次ハ加熱死菌ニシテ、光線照射死菌最モ弱シ。勿論生菌ハ最強ナリ。 (伊藤抄)

28、腦内接種法ニヨル實驗的結核

William H. Feldman, Mayor.

普通ノ接種方法デハ鳥結核菌ヲ動物ニ接種感染セシムルコトハ困難ナルガ、著者ハ腦内接種法ニヨツテ動物殊ニ犬及海狸ニハ立派ニ感染セシメ得ルコトヲ實驗セリ。該法ハ靜脈内或ハ皮下接種法ニ比シテ遙カニ速カニ罹患セシムルコトヲ得。接種セラレタル腦結核ノ病電ハ特異ノ單核細胞増殖ノ像ヲ呈シ、血管周圍及屢々軟腦膜ニ見出サレ、腦溝ニ沿ツテ内部ニ進入シ、又ハ實質内ニ孤立シテモ存在ス。腦内ニ接種サレタル菌ハ更ニ遠隔ノ器官ニ傳播シ就中、肝脾ニ好發ス、肺ハ比較的少ク、腎ヲオカシタルモノハ一例ヲモ見ズ。人型菌ヲ腦内ニ接種セル二羽ノ雛雞ニ於テハ、何レモ腦膜炎ノ變化像ヲ生ゼリ。

上述實驗ニ供セル動物ハ犬、猫、豚、家兎、鼠、海狸、雛鷄ナリ。コノ中、猫ヲ除ク他ハ皆感染可能ナリキ。
(伊藤抄)

結核専門外雑誌

29、ゲルソン氏食餌ハ結核ノ治療ニ有效ナリヤ

von Prof. W. Talta

(Wiener Klinische Wochenschrift, Nr. 5, 1930.)

ザウエルブルッフ、ヘルマンズドルフェル及ビゲルソン氏等ハ結核ニ對シテ氏等ノ食餌療法が甚ダ有效ナリ、殊ニ皮膚結核ニ有效ナリ。又骨、腺、泌尿器結核中増殖性纖維性ノ結核ニ對シテ有效ナリト言ヘリ。

余ハ肺結核患者ニテ入院後頓ニ經過良好ニシテ治癒セルモノアリ。若シ此ノ例ニ於テゲルソン氏食餌法ヲ行ヒタランニハ之レヲ以テ直チニゲルソン氏食餌法ノ效果ナリト斷ズルテアラウ。

皮膚結核ニ於テゲルソン氏食餌法が有效ナルハ食鹽ノ缺乏ト同時ニ「カリウム」及ビ「カルシウム」ノ増加ニヨル組織ノ腫脹ノ減少ニ基クモノテアラウ。肺結核ノ治療ニ對シテハ何等學問的根據ヲ有セズ。新方法ナルヲ以テ患者ニ精神的な作用大ナルベシ。
(小野抄)

30、流血中ヨリ結核菌ノ純粹培養ニ就イテ

von Prof. E. Lowenstein, Wien, und Dr. Russel, Sofia

(Wiener Klinische Wochenschrift, Nr. 10, 1930.)

著者等ハ一新培養法ヲ以テ流血中ヨリ結核菌ヲ容易ニ培養スルコトニ成功セリ。其ノ方法ヲ述ブレバ

十耗ノ血液ニ無菌的ニ五%ノ枸橼酸曹達液五耗ヲ加ヘ遠心沈澱シ血漿ヲ注出セシメ此ノ血球ニ三%ノ醋酸ヲ加ヘ水ニ溶カシ更ラニ遠心沈澱セシメ沈渣ヲ直チニ或ハ十五%ノ硫酸ヲ作用セシメテ余ノ新培養基即チ無「ペプトン」鶏卵培地ニ培養ス。

斯クシテ四—八週後結核菌ノ集落ヲ肉眼上見得。

著者等ハ此ノ方法ニヨリテ結核患者ノ血中ヨリ屢々結核菌ヲ證明セリ。粟粒結核性腦膜炎ニハ一〇〇%ニ肺結核第三期ニハ殆ンド常ニ結核菌ヲ培養シ得タリ。

殊ニ外科的結核ニテ手術ヲ行ヘル際ニハ血中ヨリ結核菌ヲ培養シ得ルコト屢々ナリ。
(小野抄)

31、肺結核患者ノ無力ニ對スル「カルシウム」ノ增量投與ノ作用ニ就イテ

von Dr. Hans Stein, Wien

(Wiener Klinische Wochenschrift, Nr. 16, 1930.)

著者ハ全身ノ筋肉ノ疲勞ト平行スルモノナル眼ノ調節作用ヲ營ム筋肉ノ調節力ヲ測定シ、無力ナル結核患者ニ於テ眼ノ調節作用ヲ營ム筋肉ハ其ノ作用能力甚ダ低下セルモノナルコトヲ知レリ。

然ルニ鹽化「カルシウム」乳酸「カルシウム」及ビフリードレーンデル氏ノ合成サル「カルツザン」等ノ「カルシウム」劑ノ增量投與ニヨリテ眼調節筋ノ作用能カヲ高メ殆んど健康者ニ近クナルコトヲ認メタリ。而シテ是等「カルシウム」劑中「カルツザン」最モ有效ナリ。
(小野抄)

32、實驗的海狸結核ニ於ケル「チフテリー」活

動免疫

von M. P. Glusman und I. J. Goldenberg.

(Zeitschrift f. Immunitätsforschung und experimentelle Therapie, Bd. 64, H. 1/2)

著者等ハ海狸ニ就キ「チフテリ」活動免疫ト結核罹患トノ關係ヲ研究セリ。此ノ目的ヲ以テ長イ經過ヲ取りテ結核死ヲ起ス感染方法「弱毒結核菌」〇・〇一mg皮下注射「ヨ海狸」ニ行ヒ感染後種々ノ時期ニ「チフテリ」T.A.ヲ以テ三回活動免疫ヲ行ヒ最後ノ注射後十日目ニシツク反應ヲ行ヒ「チフテリ」毒素一〇ヨリ一五〇〇D.L.E.マテ注射ス。而シテ屍體剖見ス。

其ノ結果「チフテリ」ノ活動免疫ハ總テノ時期ノ結核海狸ニ於テ健康海狸ト同様ニ起ル。重症結核ニ於テモ健康海狸ト同様ノ速度テ「チフテリ」免疫高度ニ達シ長ク繼續ス。

尙ホ結核海狸ノ體重増加、生存期間及剖見等ヨリ見テ「チフテリ」免疫處置及ビ毒素注射ハ結核ノ進行ニ影響ヲ與ヘズ。
(小野抄)

33、カルメットノBCG及ウーレンフトノ

TB一八ノ牛結核ニ對スル豫防注射比驗

von Prof. Dr. Uhlenhuth, Tierarzt Dr. Alfred Müller
und Dr. Karl Hillen brand

Zeitschrift f. Immunitätsforschung, Bd. 65, H. 1/2)

著者等ハ長ク普通結核培養基ニ代テ重チタル減毒牛型菌一八及BCGヲ以テ牛ニ對シ豫防注射ヲ行ヒ、之ヲ三群ニ分チ、更ラニ對照トシテ前處置ヲ行ハザル一群ヲ加ヘ、免疫處置後三ヶ月後開放肺結核ヲ有スル牛ト九ヶ月間共

棲セシメ一定期間後順次屠殺シ剖檢ス、其ノ成績次ノ如シ。

第一群(BCG百疋皮下注射) 六例中二例健康

第二群(TB一八百疋皮下注射) 同様

第三群(TB一八一瓦腹腔内注射) 同様

第四群(對照無處置) 六例全部結核感染

以上ノ成績ヨリスルハBCGハカルメットノ言フ如ク完全ナル免疫性ヲ牛ニ賦與スルコト能ハズ、尙ホBCGノ如ク膽汁ヲ以テ減毒セル結核菌ナラズトモBCGト同様ノ免疫性ヲ與フル「ワクシン」ヲ得ルモノナリ。(小野抄)

34、結核感染及罹患ニ及ボス「ラノリン」飼食

ノ影響

(三)脾臟腎臟及其他ノ臟器ニ及ボス影響

杉沼宗良(成醫會雜誌第五百十二號)

「コレステリン」ヲ多量ニ含有スル「ラノリン」ヲ以テ長期家兔ヲ飼養シ、高度ノHypercholesterinaemieヲ惹起セシメタル該家兔ハ結核感染竝ニ其發現病竈ニ對シ如何ナル影響ヲ附與セラルモノナリヤノ實驗的形態學的研究ニ就キテハ著者ハ既ニ肺臟及肝臟ノ所見ハ報告シテ居ルト述べ、他ノ臟器ニ就キテノ實驗成績ヲ次ノ如ク述ベテキル。

(一)長期ノ「ラノリン」飼食ニヨル高度ノHypercholesterinaemieヲ惹起セル家兔ニ牛型結核菌ヲ注入スルニ對照家兔ニ比シ脾臟、腎臟、副腎、小腸、腸間膜淋巴腺、大腸、眼、心臟等ニ於ケル結核結節ノ發現率大ナリ。

(二)發現セル結核病竈ヲ比較スルニ「ラ」例ニ於テハ對照例ニ比シ結節ノ大サ大ニシテ上皮様細胞ノ形成モ亦盛ナリ。

(三)病變進行速度ハ「ラ」例ニ於テハ對照例ニ比シ劇甚ニシテ容易ニ乾酪瘰ヲ形成ス、從テ寧ロ滲出性若シクハ變性破壞性機轉ノ傾向ヲヨリ強ク示スモノナリ。

(四)要之「ラノリン」飼養家兎ニ於ケル結核感染ハ「ラノリン」攝取ノ量的關係ト免疫體產生ニ重大ナル意義ヲ有スル組織球細胞ノ機能減退トノ間ニ於テ密接ナル關係ノ存在スルモノナル事ヲ上記ノ形態學的變化ノ關係ヨリシテ思惟セラル、者トスト。

(川上抄)

35、結核菌ノ色素攝取ニ關スル研究(第一報)

紙野圭三(大阪醫學會雜誌第二十九卷第四號)

結核菌ヲ色素含有無蛋白培養基ニ培養スルトキハ、或程度ノ色素含有量ニ於テ、菌ハ良ク發育スルモノナリ。此ノ發育圍價ハ色素ノ種類及培養シタル菌株ニヨリテ差異アリ。而シテ此ニ發育シタル菌ヲ肉眼的顯微鏡的ニ觀察ストキハ菌體ノ色素攝取狀況及色素培養基ノ狀況等ヨリ使用シタル色素十八種ヲ三類ニ分類スルヲ得タリト、甲ハ結核菌増殖ニツレ培養基色調ハ脫色サレ發育菌苔ハ固有有色調ニ著色ヲ見ズ、常ノ如キ聚落ヲ形成シタリ。之ヲ色素第一類ト稱ス。「ゲンチアナヴィオレント」「ダーリア」「ロザニン」及「フクシン」ノ四種之ニ屬シ、何レモ「ロザニン」屬ノ鹽基性色素ナリ。乙ハ發育菌苔ガ色素ヲ攝取シテ各色素個有ノ色調ニ染レル著色聚落ヲ形成ス。之ヲ顯微鏡的ニ觀察シテ本型及亞型トナス。即チ本型ニ在リテハ略々平等ナル著色菌塊ヲ漠然ト認ムルノミニシテ「サフランニン」「ツリペフラヴィン」「ニールブラウズルファアト」「イザミンブラウ」「ノイトラルロウト」「シャアラハロウト」「ツリパンブラウ」「ピクリン」酸及「オランゲ」之ニ屬シ、亞型ニ在リテハ平等ナル著色菌塊ノ他ニ細キ著色桿菌郡ノ存スル部分アルヲ認ムルモノナリ「エリツ

ロジン」及「エオジン」之ニ屬シ是等ヲ總括シテ第二類トス。以上二類色素十種ハ「アツイン」「アクリヂン」「ツリフェニールメタン」「アツオ」及「フェノウル」色素ニシテ過半數ハ酸性色素ナリ。丙ハ「チオニン」「トルイジンブラウ」及「メチレンブラウ」ノ三種ニシテ發育菌苔ハ青紫色乃至淡青色ニ著色シテ居リ、鏡檢上、菌原形質内ニ著明ニ色素ヲ攝取セル孤立性桿菌ヲ認ム、此ノ色素攝取菌ハ適當濃度ニ於テ著明ニ現ハレ而モ孤立シテ均等ニ著色シ、或ハ肥大セル長キ亦短キ桿菌ノ像ヲ認ムルモ濃度之ヨリ高キニ及ベバ是等特殊染色桿菌ノ他ニ細キ淡青桿菌或ハ是等桿菌體內ニ小顆粒ノ著染セルモノ次第ニ増加スルモノナリ是等三色素ハ俱ニ「チオニン」色素ハ「チアツイン」色素ニ屬シ鹽基性ナリト。

(川上抄)

36、舊「ツベルクリン」注射ニ因ル白血球像及

血球沈降速度ノ變化特ニソノ肺結核診斷

上ノ意義

本郷孝久(熊本醫學會雜誌第六卷第一號)

著者ハ「ツベルクリン」ノ注射ガ「ヘモグラム」及「白血球沈降速度」ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ、之ニ因テ生ズ可キ變化ニヨリ結核ト然ラザル者トヲ區別シ得ザルヤ、從テ斯ル操作ヲ插ムコトニヨリ「ヘモグラム」及「沈降速度測定法」ガ結核ノ早期診斷ニ對シ意義ヲ生ズルコト無キヤヲ思惟シ之ガ實驗ヲ企ダテタリト述ベ結論トシテ、

(一)中性嗜好細胞ノ增多竝ニ其ノ核形左方推移淋巴球ノ減少ヲ以テ「ツベルクリン」皮下注射ノ結核ニ對スル定型の反應ノ一ト認メ、臨牀上結核ト思ハレザルモノニテハ熱、全身兩反應等著明ナル場合ニテモ右定型の白血球像ヲ

38、結核菌ノ多形性(第一報)

村田常一(京都醫學會雜誌第二十六卷第九號)

著者ハ肺結核患者ノ喀痰ヨリ「モルモット」ヲ通シテ分離培養セル一株ノ人型結核菌ヲ蒸留水中ニテ約一年間三十七度内外ニ震盪スルコトナク培養シテ形態上大體二種ノ變化ヲ見タリ。第一種ハ一見微ノ如ク、分枝セル菌絲ヨリナリ、多クハ長軸ニ沿リテ稍、橢圓形ヲナセル斷裂芽胞ヲ有スルガ如キ狀ヲ呈シ、菌絲錯綜部ノ所々ニ「グラム」陰性ノ結核菌様ノ桿菌ノ集團ヲ見タリ。又菌絲ハ大小長短甚ダ不定ニシテ彎曲セルモノ、殆ンド直線ノモノ等種々ナリ。次ニ、菌絲ソレ自身ニ於テ殆ンド菲薄被膜ヲ認ムルコト困難ニシテ一見唯菌ノ種種ノ形ニ膨大又ハ延長セルモノ、如キ連續ヲ見ル。カ、ル連續ガ抗酸性結核菌集團ノ周圍ヨリ移行スルノ狀明瞭ナルコトト時ニカ、ル連續ノ膨大部ニ於テ今ヤ抗酸性菌ニ變化シツ、アルガ如ク極小短ナル抗酸性菌ノ集團ヲ含メルモノヲ認ムルハ奇トスベキナリ。第二種ハ一見絲狀菌ノ露出芽胞ノ分離セシ如ク、或ヒハ酵母ノ如ク、多クハホッ楢圓形又ハ圓形、時ニハ指環ノ如ク見エ、大體赤血球ノ1/2大ニシテ或ヒハ一個或ヒハ集團ヲナシ、時ニハ二葉又ハ三葉型等種々ニシテ數個連絡スルヲ見ル。酵母ノ如ク連結セルモノニテハ時ニ境界ニ抗酸性菌ノ小ナル集團アルコトアリ。次ニカ、ル變化ハ單ナル退行性變化ニ過ギザルカ、又ハ第一種ノ變化ノ如ク或ル發育時期ニ於ケル菌ノアル特種ノ狀態ニ於テノ一ノ發育過程ニハアラザルカ。第一種第二種トノ關係ニ就キ著者ハ後ニ詳シク報告スルノ材料ヲ有スルモ之レヲ文籍ニ見ルニ、一九〇七年 Metchnikoff 氏ノ發表シタルモノ及ビ Vandremer 氏ガ一九二四年ニ寒性膿瘍ノ培養初期ニ見タルモノニ大體一致スルモノアルヲ見ルト、更ニ第一種第二種共ニ人工培養ニ移植スルコト困難ニシテ、普通結核菌培養ニ

用ヒラル、種々ノ培養基ニ移植スルヲ得ズ、又代ヲ重ナルモ何物モ發育スルヲ見ズト。又兩者共ニ、二五〇乃至三五〇瓦ノ「モルモット」ニ培養一・五乃至二・五瓦ヲ大腿内側ニ皮下接種スルモ何等局所症候並ニ一般症候ヲ呈セザレドモ、四週日ニシテ「ツベルクリン」反應陽性ヲ呈スト。(小林抄)

39、相對性臟器ニ於ケル病理解剖的變化

其ノ一、肺臟ニ就テ(一)肺結核症

新井二郎(日本微生物學雜誌第二十四卷第六號)

著者ハ相對性臟器ノ病變ニ就キ觀察シ、特ニ各臟器ノ左右側ヲ比較センガタメ肺結核ニ就キ其ノ左右側ノ病變ヲ比較觀察セリ。然カモ解剖所見ヨリ觀テ肺結核症例ヲ如何ニ區別シ分類スベキヤニ就キテハ諸學者ノ意見一致セザルモ著者ハ肺結核性病變特ニ旺盛ニシテ、之ガ致死ノ主因ヲナセルモノヲ主要例トシ其ノ然ラザルヲ非主要例トシテ區別シ後者ヲ更ニ二ツトナシ、肺結核性病變ガ主要ニ非ザルモ多少ノ顯著性或ハ進行性ヲ示スモノ(顯著例)他ハ肺結核性病變ノ殆ンド陳舊性病變ノ殆ンド陳舊性ヲ呈スルモノ(輕微例)トニ分チ、而シテ肺結核病屍一・二八一例ニツキ各病變ノ種類ニ從ヒ特ニ左右側ニ於ケル異同ニ就キ攻究シ次ノ如ク總括セリ。

- 一、肺結核症ヲ主要例、非主要例ニ分ツ時ハ、五八・七%ハ前者ニ、四一・三%ハ後者ニ屬ス。
- 二、左右肺ノ關係ハ一般ニ右肺ハ左肺ニ比シテ結核症ニ感染シ易キモ、左肺ハ右肺ヨリモ重症ニ陥リ易キヲ惟ハシム、尙病變ノ程度ニ從ヒ次記ノ如キ關係ヲ有ス。

(一)主要例ニ於テ兩肺ニ結核菌アリ然モ左右略々同程度例二九、二%、左側

高度例三五・七%、右側高度例三一・七%、左側ノミノモノ一四・六%、右側ノミノ例二一・二%ナリ。而シテ兩肺各葉ニ於ケル病竈出現頻度ハ殆ソド差異ナキモ病竈ノ最モ顯著部位ヲ觀ルニ右上葉主位ヲ占メ左上葉之ニ次ギ。

(ロ)非主要例中顯著例ニ於テハ兩肺ニ結核竈アリ、而カモ左右略々同程度例三八・五%、左側高度ノモノ二〇・四%、右側高度例一五・七%、左側ノミノモノ一〇・四%、右肺ノミノ例一四・七%ナリ。而シテ兩肺各葉ニ於ケル病竈頻度ハ右上葉主位ヲ占メ左上葉之ニ次ギ右下葉、右中葉ノ順位ナリ。

(ハ)非主要例中輕微例ニ於テハ兩肺ニ結核竈アリ。兩側略々同程度ノモノ一四・七%、左側高度例一・五%、右側高度ノモノ七八・六%、左側ノミノモノ三五・五%、右肺ノミノモノ三七・七%ナリ。兩肺各葉ノ病竈頻度ハ左上葉主位ニシテ右上葉之ニ次ギ、右肺炎、左肺炎、左下葉、右下葉、右中葉ノ順位ナリ。

40、瘰癧結核ニ關スル實驗的研究(第一回報告)

松岡久藏(成醫會雜誌第四九卷第一號)

著者ハ牛型結核菌ノ微量浮游液(生理的食鹽水)ヲ家兎瘰癧丸内ニ接種シテ生ズル瘰癧結核ノ形態的變化ヲ菌接種後第一日ヨリ第七十日ニ互ル時日ニ於テ逐次的ニ檢索シ其等ノ肉眼的及ビ組織學的變化ヲ觀察シタリ。即チ肉眼上瘰癧丸ノ變化ハ初期ニ於テハ菌ニ對スル炎症反應著明ニシテ後期ノ半カバニ於テハ結節形成セラレ、漸次其數ヲ増シ且ツ乾酪化ヲ來タスニ至ル。組織學上ノ變化ハ第二十日に至リ定型の結核結節形成ノ像ヲ認メシムルモ多クハ微細小結節ナリ、其レヨリ漸次結節増大シ且ツ乾酪化竈ヲ形成シ結節周圍ノ圓形細胞浸潤著明トナル。結節形成ノ最モ旺盛ナル時期ハ第三十日ヨリ第四十日以

(小林抄)

後ナリト。而シテ結核結節ヲ形成スル主要ナル細胞ハ所謂上皮様細胞ニシテ

ラングハンス氏巨態細胞ノ發現ハ著者ノ實驗ニ於テハ極メテ少數例ニ於テ少數之レヲ認メタルノミナリト。結核菌ハ初期ニテハ極メテ少數大單核圓形細胞内ニ後期ノ初メテハ初期結核結節内及ビ間質内ニ比較的多數之レヲ認メシム。一般ニ初期ニハ極メテ尠ナク後期ノ初メニ於テ劇增シ半バニ至リ最モ多數ニ之レヲ認メシム末期ニ於テハ漸次減少ス。結核結節内脂肪ノ發現ハ、結節初期ノ像トシテ現ハル、圓形細胞集簇部又ハ乾酪化竈ヲ伴ハザル結節ニ於テハ僅微ナルカ又ハ全ク之レヲ認メシム。結核結節ニ於ケル格子狀纖維ハ初期結節内ニ纖細ナル本纖維ノ走行ヲ見ルノミニシテ結節形成著明トナレバ本纖維稍々著明トナリ稍々太キ纖維が結節周圍ヲ輪狀ニ圍繞シ、結節内部ニ向ツテ放射狀ニ走行ス。尙結節以外ノ主要ナル瘰癧丸ノ變化トシテ炎症機轉ニヨリテ惹起セラレ、實質及ビ間質ノ變化ヲ記載セリ。即チ實質ニ於テハ初期第一日ヨリ精絲形成機轉ノ中止及ビ各細精管内上皮細胞ノ種々ナル退行性變化又ハ壞死ヲ來タシ、間質部ニ於テハ初期炎症性水腫充血及ビ出血稍々著明ナルモ後期ニ至リ漸次是等ノ現象減退ス。曲細精管内細胞中爲害作用ニ對シ最モ抵抗強キハS細胞ナリ、精祖細胞之レニ次ギ、精母細胞精娘細胞及ビ精絲形成機轉ハ最モ容易ニ影響ヲ蒙ル。結節周圍ニ存在スル萎縮細精管又ハ集成結核内ニ包埋セラレ、萎縮細精管ニ於テハ極メテ少數ノ腫大狀ノS細胞ヲ認メ又ハ此細胞モ遂ニハ消失シ固有膜ノミ殘ルヲ見ル。

(小林抄)

41、喀痰検査ニヨル軍隊ニ於ケル結核患者

早期發見法

佐々木高行(軍醫團雜誌第百九十八號)

著者ハ喀痰中結核菌ノ早期發見タルヤ公私衛生上最モ重大ナ意義ヲ有スルモ

ノニシテ特ニ密接ノ關係アル集團の生活ヲナナルニ於テ然リトスト述ベ結論トシテ次ノ如ク述ベテキル。

(一)染色法トシテ「ル・チールセン」氏法、ガベット氏法及其ノ變法並ニ「ピクリン酸法等簡單ニテ成績良好ニテ更ニ「グラム」陽性顆粒染色法トシ、ムッフ氏法及其ノ變法ヲ兼テル事ハ安全ナリ。

(二)喀痰等質化劑トシテ「アンチフォルミン」原液最モ良好、荷性加里曹達之ニ亞ギ、磷酸類「アンモニア」單ナル加熱、消化劑等ハ等質能力不真ナリ。

(三)集菌法トシテ「アンチフォルミン」變法ノ「フンデスハーゲン」氏法、レフレル氏法、ツアーン氏法、春日氏法及余ノ方法成績優秀ナリ。

(四)培養法トシテ「吉、ホーン、ベトロッフ、南崎氏等ノ方法余ノ方法成績良好「アンチフォルミン」法稍々劣ル。

(五)培養基ノ性ハ特ニ強度ノ「アルカリ」性、示酸性ニ非ザル限リ修正ノ要ナク亦前處置劑トシテ「酸及「アルカリ」ヲ中和スルニ及バザルガ如シ但シ鶏卵培地ニ限ル。

(六)培養基ハ余ノ「ゲンチアナウイオレット」生卵黄「グリセリン」寒天、ルブ「I」及三%「グリセリン」加血液寒天等最モ發育良好「ベトロッフ」弱「アルカリ」性卵黄「グリセリン」寒天等之ニ亞ギ馬鈴薯培地ハ稍々劣ルモ結核菌分離培養基トシテ適當ナリ。

(七)余ノ集菌ヲ兼テル培養ノ比較的良法ハ喀痰ト等量ノ定規苛性加里ヲ加ヘ強ク振盪シ等質化セシム。更ニ以上ノ液等量ノ四倍ノ日本藥局方過酸化水素液ヲ加ヘ強ク振盪後三〇分間滅菌沈降管ニ採取シ一分間二〇〇〇〇〇廻轉シ三分以上遠心上清液ヲ傾除、沈澱物全部ヲ培養塗染染色ヲナス。

(八)余ノ法ニテ人型、牛型結核菌ヲ培養シ得ルモ鳥型、「ハルン」菌「チモテ

」菌ハ培養サレズ。

(九)余ノ法ハ喀痰及其ノ他ノ材料合計二六例ニテノミ實驗セシモノニテ種々ノ材料ニ對スル使用效果ハ不明ナリト。

(川上抄)

42、關節結核千五百七例ニ就キテ(第一回)

報告

菊山貞一(千葉醫學會雜誌第七卷第十二號)

骨關節結核ニ於ケル發病、年齢ハ豫後ニ重大ナル影響アルハ敢テ贅言ヲ要セズ。サレド之ニ關スル調査ハ本邦ニテハ勿論泰西ニアリテモソノ正確ヲ期シタルモノ殆ンド無キガ如シ、著者ハ關節結核一五〇七例ニ就キ其ノ發病年齢ヲ年齡細別部位別、男女性別別、左右側部位別、男女性左右側部位別ト爲シ調査表示シ、其結果統計的ニ骨關節結核ハ其發病骨發育ニ伴フ關節體ニ於ケル生理的血管分布狀態ノ變化肺結核罹患ノ年齢の消長、外傷及ビ鬱血等ガ重大ナル關係アルヲ確カメ、Jensen氏動脈栓塞說ヲ直後ノ誘因トシテ首肯シ難キヲ說キ外傷ノ誘因タルハ主トシテ夫レニ繼發セル炎症ニ據ルヲ妥當ナリト述べ、骨關節結核發病ニハ圓韌帶損傷ガ主トシテ其誘因タルヲ數的以外「レントゲン」像及ビ局所解剖所見等ニ據リ說破シ、女子ノ歩行姿勢改善ヲ其體育上勿論ニ付スベカラズト記載セリ。

(川上抄)

43、牛ノ「バラ」結核性腸炎ノ發生例ニ就テ

竹原好兵(中央獸醫會雜誌第四十三年第四號)

牛ノ「バラ」結核性腸炎即チヨ―チ氏病ガ歐米諸國ニ於テ古クヨリ發生シツ、アルモ我國ニ之レヲ見ザルハ喜バシキ現象ナルモ又次テ聊カ疑念ナシト爲シ得ザルナリト。サレバ著者ハ過去數年間本病ノ有無ニ關シ觀察ヲ怠ラザリシ

が去ル昭和二年一月ニ至リ偶々ヨ―子氏病疑似牛ニ遭遇セルヲ以テ之ガ検査ヲ行ヒ眞ノヨ―子氏病ナリトノ確信ヲ得タル實驗報告ニシテ最後ニ左ノ如キ總括アリ。先ヅ最初鏡檢ニ於テ腸内容及粘膜内ニ無數ノ特異抗酸性細菌ヲ證明セルヲ以テ、ホ―本病特異抗酸性細菌即チ本病ト直接原因ノ關係ヲ有スルモノト解スルヲ得ベシ、サレド抗酸性桿菌ニシテ牛ニ病原性ヲ有シ最モ頻繁ナル疾病ノ原因ヲナスモノハ結核菌ナルヲ以テ、該腸内特異細菌ノ結核菌ナルヤ否ヤヲ決スルハ本病診斷上必要ノ事項タリ。而モ牛ニ病原性ヲ有スル抗酸性細菌トシテハ今日吾人ノ知レル範圍内ニアリテハ結核菌及ヨ―子氏菌〔バラ〕結核菌ノ二種ニ過ギズ。サレバ該抗酸性菌ノ結核菌ナルヤ否ヤヲ決定スルハ同時ニヨ―子氏菌〔バラ〕結核菌ナルヤ否ヤノ決定トモナリ得ベク、病性鑑定上最モ有力ナル資料トス。第二第三ノ試驗ハ即チ此ノ目的ニ對シテ行ハレタルモノニシテ結核菌ニ感受性鋭敏ナル「モルモット」ヲ使用シテ人工接種ニヨリ發病ノ有無ヲ檢シ、更ニ結核菌ノ分離培養ヲ試ミタルニ何レモ全ク陰性ニ終レルヲ以テ之ノ結果ニ依レバ結核菌ヲ否定スルニ充分ナリト信ズ。從ツテ更ニ臨牀上ノ徵候竝ニ剖檢所見等ヲ參照セバヨ―子氏病ニ對シテハ殆ンド誤リナキ診斷ヲ下シ得ベシト雖モ、尙一層確實ヲ期セン爲メ第四第五ノ試驗ヲ企テヨ―子氏菌ノ分離培養竝ニ本菌ニ對シ感受性ヲ有スル牘及家兎ニ人工接種シ發病ノ有無ヲ檢シタルニ、培養ニ於テハ本菌ノ發育セルヲ認め、接種試驗ニアリテハ牘、家兎各一例ニ於テ定型特殊病徵ノ下ニ發病シ、各病例ニ於テ接種菌ト同一ノ特異抗酸性小桿菌ヲ證明シ陽性結果ヲ得タリ。但シ接種試驗ノ結果陽性ニ現ハレタル動物ニシテ病徵極メテ著明ナリシニモ不拘何レモ終ニ治癒ノ轉歸ヲ取レルハ聊カ不定型ノ感ナキ非ズト雖モ是レヲ以テ直ニニ本病ヲ否定スルニ足ラズ、恐ラクハ四圍ノ狀況個體ノ體力其他不

抄 録

明ノ條件ノ下ニ、カク特殊ナル轉歸ヲ取レルモノト解スルヲ至當トス。右ノ外向接種動物ニ應用シタル「ヨ―ニン」ノ注射試驗ニ於テ極メテ著明ノ熱反應ヲ發現シタル事實ハ亦、本診斷上有力ナル參考資料トナレリ。大要上記ノ如クニシテ各試驗結果ヲ總合スレバ本患牛ノヨ―子氏病〔バラ〕結核性腸炎ナルハ毫モ疑フノ餘地ナキモノトス。(加藤抄)

44、肺臟代償機能ニ關スル實驗的研究(第二回報告)肺動脈結紮ノ呼吸ニ及ボス影響

八田俊之(十全會雜誌第三十四卷第十二號)

肺臟ノ代償機能ニ就テ論セントスルニ當リテ肺血流、血壓關係ト同時ニ呼吸運動ノ關係ハ不可缺ナルモノニシテ余ガ肺動脈枝結紮ノ場合血壓ニ及ボス影響ノ左右ノ關係ノ觀察ニ於テ兩者間明ラカニ相違セル結果ヲ得。以テ從來諸家ノ本方面ニ關係セル實驗ヨリ漸ク一歩ヲ進メ、肺臟代償機能ノ發揮機轉竝ニ其ノ限度ニ就キテ更ニ確實ナル根據ヲ與フル事ヲ得タルガ、此ノ關係ハ又先ノ見地ヨリシテ呼吸運動ニ就キテ一致セザルベカラズ。即チ著者ハ諸種血壓變化ノ關係ヲ實驗スルト同時ニ其ノ呼吸運動ニ就キテモ觀察ヲ行ヒタル結果左ノ結論セリ。

- 一、左側肺動脈結紮ニヨル該側肺血流曠置ハ呼吸状態ニ殆ンド影響ヲ及ボスコトナシ。
- 二、右側肺動脈血流ヲ阻止セルニ直チニ呼吸ノ増強ヲ惹起シ然モモスカル變化ハ持續的ニシテ短時間ニ恢復ヲ示スコトナシ。
- 三、呼吸ニ及ボス影響ニ就キテノ觀察ヨリスルモ兩側肺臟ハ左右間明カニ相違アリ。而シテ斯クノ如キハ左右肺臟ノ量的差異ニ依ルモノナリ。

四、左側肺動脈血行閉鎖ノ際、其ノ呼吸状態ノ變化セザルハ残留側肺ノ血流代償ニヨリ呼吸作用完全ニ遂行セラル、ニ依ル。之レニ反シテ右側肺動脈結紮後呼吸状態ノ變化ヲ來セルハ左肺極度ノ能動的機轉發揮ノミニ依リテハ血流代償不全ヲ來スト共ニ呼吸機能ノ代償失調ヲ招來シタルニ基クモノナリ。

(加藤抄)

45、結核症ニ於ケル内分泌腺ノ病理解剖學的

及組織學的研究

其二、腦下垂體變化ニ就キテ

宮田榮(十全會雜誌第三十四卷第十二號)

腦下垂體ノ機能上ニ特殊ノ變化ヲ來スト見做サルベキ末端巨大症、脂肪過多性生殖器萎縮症、妊娠及去勢ノ影響等ニハ注目セルモノ少カラズ。然レドモ種々ナル傳染病ノ際ニ於ケル腦下垂體、就中結核症ニ於ケル變化ニ關シテノ記載ハ少シ。著者ハ結核症屍ノ腦下垂體ヲ系統的ニ檢索シ以テ腦下垂體ノ病理ヲ闡明セント欲シ本研究ヲ企テ詳細ナル病理解剖及組織學的研究ノ後チ左ノ結論ヲナセリ。

一、本篇ハ人體結核症一〇〇例(年齡六歳ヨリ七六歳)ノ腦下垂體ノ病理組織學的檢査ノ記載ナリ。

二、結核症例ニハ前葉結締織ハ常ニ增生セリ。但シ高齢者ニ於テハ老年性ノ結締織增生ト區別スル要アリ。

三、高齢者ノ例ニハ前葉動脈ニ於テ少數ノモノニ輕度ナル壁ノ肥厚ヲ認メタリ。

四、三例ニ於テ前葉組織中ニ壞死竈ヲ見タリ。又四例ニ於テ(三例ハ前ハ前葉一例ハ後葉)粟粒結核ヲ認メタリ。共ニ其ノ變化ハ小範圍ニ止マレリ。從テ

腦下垂體ノ機能上ニ重大ナル影響ヲ及ボセリト思考セラレズ。

五、檢セシ範圍ニ於テ前葉腺細胞ノ三種中、主細胞ハ各年齡ニ於テ最も多シ。「エオジン」染色細胞ハ中年ニ於テ多キモ概シテ第二位ヲ占ム。鹽基性染色細胞ハ最も少シ。八例ニ於テ主細胞甚ダ多ク、「エオジン」染色細胞ノ殊ニ少キモノヲ見タルハ注目ニ値スル所見ナリ。

六、前葉腺細胞中ニ出現スル「リポイド」ハ年齡ト共ニ増加ス。「コレステリン」エステルハ概シテ「リポイド」量ノ多キ例ニ之ヲ證明シ、三七例ニ於テ陽性ナリ。結核「リポイド」量ニ著シキ影響ヲ及ボサルモノ、如シ。

七、中間部ニ於テ屢々唾液腺ノ構造ヲ有スル組織ヲ認メ、又扁平上皮竈及結石ヲ認メシコトアリ。

八、後葉ニ散在セル鹽基性染色細胞ハ主トシテ中間部ノ囊胞ノ上皮細胞ヨリ由來シ年齡ト共ニ増加スル傾向アリ。色素顆粒モ亦年齡ト共ニ増加ス兩者ノ間ニハ直接ノ關係ナク、亦結核症トノ間ニ一定ノ關係ヲ認メシメズ。

(加藤抄)

46、結核抗原ノ各種接種法ニヨル抗體產生度

比較

岡本圭三、田中憲太郎(細菌學雜誌第四百十一號)

著者ハ結核免疫ノ一部分ニシテ結核菌體及ビ「ツベルクリン」ノ經口的氣道の及經肛門の投與ニ因ル家兎ニ於ケル對結核凝集反應並ニ大谷氏血漿噬菌現象ニ就テノ多數實驗ヲ重子左ノ結論ヲナセリ。

一、結核菌體及ビ「ツベルクリン」ヲ以テ家兎ニ經口的免疫ヲ行フニ、對結核菌凝集反應及ビ大谷血漿噬菌現象ノ増強ヲ認メズ。

二、結核菌體若クハ「ツベルクリン」ノ氣管内注入ニヨリ凝集價ノ上昇ヲ認メ

ザレドモ、喰菌現象ノ顯著ナル發現ヲ見ル、菌體及「ツベルクリン」ノ混合液ヲ以テスレバ兩者ノ陽性度平行ニ上昇ス。

三、「ツベルクリン」竝ニ、菌體及「ツベルクリン」混合液ヲ直腸内ニ注入スルニ凝集素ノ増生ヲ認メ難ク、喰菌現象ノ高度ニ起ルヲ見タリ。(加藤抄)

47、自然吸入ニヨル炭末ノ肺内進入竝ニ吸收

機轉肺結核病理機轉ノ實驗的研究第二編

平田實(長崎醫學會雜誌第八卷第二號)

著者ハ第一編ニ於テ家兔ニ鋸屑及石松子ヲ吸入セシメ肺炎及肋膜炎ヲ起サシメ又一方人型結核菌浮游液ヲ海狸氣管内ニ注入シ肺結核ニ罹ラシメ兩者ノ初期發生機轉ヲ研究シ且ツ兩者ノ肺内進入後最初ニ附著スル部位ヲ決定セリ。又本編ニ於テ動物ニ炭末ヲ吸入セシメタル場合、其炭末ガ如何ナル狀態ヲ以テ進入スルモノナルカ又如何ニ吸入セラル、モノナルカ及ビ其排出ノ狀態竝ニ吸入炭末ハ最初ニ肺ノ何處ニ落ち付クモノナルカヲ決定シ且ツ炭末吸入ニヨリテ起ル肺組織ノ病理學的變化ヲ研究シ以テ炭末吸入ノ影響ヲ知ラントセシ實驗的研究論文ニシテ左ノ總括及ビ結論ヲナセリ。

I、總括

- 1、吸入炭末ノ肺臟内沈著量ハ吸入ノ量及時間ニヨリテ異ナルモノニシテ同一濃度ノ炭末ニ於テモ吸入ノ時間長キ程炭末沈著量モ多量ナリ。
- 2、炭末ヲ吸入シタル場合之レガ肺胞内ニ到達スルハ極メテ短時ニシテ吸入後數分間以内ニ於テ到達スルモノナリ。
- 3、一定ノ時間炭末ヲ吸入セシメル後ヲ吸入實驗ヲ停止スルモ尙五—三〇分間ハ呼吸器ニ殘留セル煤煙ハ深部ニ向ツテ進入スル傾向アルモノナリ。

4、炭末ハ吸入セラレテ後、容易ニ肺組織内ニ進入スルモノニシテ單ニ遊離ノ狀態ニ於テ其ノツ、進入スルモノアリ、又炭末細胞ニ喰喰セラレテ進入スルモノアリ。

5、炭末ヲ喰喰セル細胞ハ吸入實驗後甚短時間ニ肺實質内ニ見ラル、モノニシテ吸入實驗ヲ停止スルモ尙三〇分—一時間ハ却ツテ炭末ヲ喰喰セル細胞ノ増加ヲ見ル。

6、吸入セラレタル炭末ノ喀出セラル、狀態ヲ見ルニ先ヅ最初ニ遊離ノ狀態ニアルモノ喀出セラレ是レガ喀出シ盡サル、頃ヨリ炭末細胞ニ喰喰セラレタルモノ次第ニ喀出セラル。

7、炭末ガ呼吸器内ニ進入シ最初ニ附著スル部位ハ呼吸性氣管小枝ガ氣胞道ニ分枝スル點及氣胞道ガ尙小ナル氣道ニ分枝スル點ニ於ケル中隔壁ノ突端ナリ、乾燥飛散スル結核菌ノ如キ微細ナル有機體モ此部ニ最初附著スルモノナルベシ。

8、自然吸入ニヨリテ肺内ニ進入スル炭末ハ肺ニ重大ナル病的變化ヲ起スコトナク甚ダ有害ナリト思ハレズ。

II、結論

- 1、乾燥狀態ニアル微細ナル塵埃ハ自然吸入ニヨリテ容易ニ肺胞内迄到達シ得ルモノニシテ其ノ進入量ハ吸入ノ量ト時間ニ正比例ス、而シテ進入シタル塵埃ガ氣道ヲ經テ排出セラル、モノ大部分ハ其マ、氣道分泌物ト混ジテ喀出セラレ一部分ハ塵埃細胞ニ喰喰セラレテ氣道ヨリ排出セラル。
- 2、乾燥セル微細ナル塵埃ヲ自然ニ吸入スル際、此塵埃ガ最初ニ附著スル肺ノ部分ハ呼吸性氣管小枝ガ氣胞道ニ分枝スル場所及各氣胞道ガ尙小ナル氣胞道ニ分岐スル場所ニ於ケル各分枝間ノ中間壁ノ突端ナリ。尙自然吸入ニヨリ

肺内ニ進入スル結核菌ノ如キ微細ナル有機體モ先ヅ最初ニ此部ニ附著スルモノナル可シ。

3、塵埃吸入ニヨリテ起ル肺ノ病理學的變化ハ其塵埃ノ種類ニヨリ異ナルモノニシテ炭末ノ吸入ニヨリテハ肺ニ重大ナル病的變化ヲ感起スルモノニ非ズ其進入ノ結果トシテ起ル分泌作用ノ亢進スルコト及清淨作用ノ旺盛ナル事ハ却ツテ肺臟ヲ無菌的ニ保護スルモノニシテ一定ノ吸入ハ肺臟吸引性傳染性疾患ノ發現ヲ或ル程迄豫防シ得ルモノナル可シ。
(加藤抄)

48、家庭醫ノ喉頭結核治療

Ludger Rickmann

本書ハ結核叢書ノ一トシテ發刊セラレタル小冊子ナリ。
喉頭結核ニ對スル積極的治療ノ好成績ハ昔ノ悲觀的豫後ヲ次第ニ驅逐セントス。カ、ル理由ヨリ開業醫モ喉頭鏡所見ニヨリテ早期診斷ヲ下サル可カラズ。肺結核ニ於テハ臨牀上二〇—三〇%解剖上五〇%以上ノ喉頭結核ガ合併セリ、最も多キハ開放性空洞性結核ニシテ二〇—三〇歳ノ者ナリ。病型ハ小結節浸潤潰瘍ニ別チ猶免疫状態ニヨリテ滲出型及ビ増殖型ヲ區別ス。

カ、ル患者ハ指導者ナキ溫暖ナル地方ニ轉地セシムルヨリハ完全ナル治療所ニ送ル可キナリ、塵埃ナキ職業。適當ナル無刺激性食餌、沈黙療法ハ必要ナリ。局所ニハ喉頭注入器或ヒハ同噴霧ニヨリテ五—一〇%「メントール」油ヲ作用セシメ潰瘍ニ對シテハ「チアノール」或ヒハ三〇—八〇%乳酸ヲ以テ腐蝕ス金療法ハ唯滲出性ノ浸潤或ヒハ潰瘍ニ用キラル、モ家庭内治療ニハ不適ナリ。外科的療法トシテハ電氣燒灼、搔把或ヒハ會厭軟骨ノ切斷ガ問題トセラレ、放射療法トシテハ日光人工高山燈、フキンセン燈等ヲ用キラル。嚥下困難ニ對シテ局所麻醉特ニ「アルコール」注射ニヨル永續的ノモノガ適當ナリ。

妊娠ハ喉頭結核ニ不良ナル影ヲ與フル故ニヤ、重症ナル者ニ對シテ三ヶ月以内ニ人工中絶ヲナス必要アリ。
(春木抄)

49、結核ト妊娠

Dvorschak, Rudolf, u. Karoly Oppolzer.

Zentralblatt für die gesamte Tuberkuloseforschung,
Bd. 32, H. 7/8, 1930.)

著者ハ統計的觀察ニヨリテ結核妊娠婦ノ人工中絶ハ保主的治療ニヨル場合ニ比シテ好成績ヲ擧ゲ得ザル事ヲ示セリ。妊娠ハ「アレルギー」(メントール氏反應ニヨル)ヲ減弱セシムル者ニシテ殊ニ結核妊娠婦ニ於テ其度著名ナリ。同様ニ赤血球沈降速度ノ速進モ結核妊娠婦ニ於テ著シ、是等ハ豫後不良ノ一指針タルモ妊娠中絶ハ決シテヨキ治療法ニ非ズシテ此レヨリモ寧ロ人工氣胸法或ヒハ其他ノ外科的治療ヲナスヲヨシトス。
(春木抄)

50、乳兒及ビ小兒ニ於ケル肺結核

Happ, William M. (Zentralblatt für die gesamte

Tuberkuloseforschung, Bd. 32, H. 7/8.)

乳セ結核ノ症候及ビ經過ハ成人ニ比シテ大ニ異リ、「アレルギー」無キ生體初感染ニ對スル組織反應ヲ示ス、即チ淋巴腺結核ノ症候主トシテ現ハレ其高度ナル場合ニハ氣管及ビ氣管枝ヲ壓迫シ、肺萎縮ヲ來ス事アリ、粟粒結核ハ全身或ヒハ肺ノミニ來リ後者ノ場合ニハ數ヶ月ノ經過ヲ取ル、エビツベルクローハ結核菌ノ周圍ニ於ケル一ツノ「アレルギー」性反應ト見做サル肺炎結核ハ乳兒ハ勿論一〇歳以下ノ小兒ニハ見ラレズ診斷ハ一二ノ症候ニ捕ハレズ。臨牀的、細菌學的、「ツベルクリン」反應、「レントゲン」等ノ總合ニヨリテナサレザル可カラズ。
(春木抄)

會報並ニ雜報

○七月中新入會者

佐々木園子 高松市五番町、多田羅病院内

○會員ノ訃

左記會員ノ訃報ニ接シ謹ミテ吊意ヲ表ス。

持木丈二郎

小野貞衛

第八卷第六號 德永光夫論文正誤

頁	行	誤	訂正
六七九	内容目次	第五章 考察	第五章 考察
六八〇	二	肋膜炎、研究ニ	肋膜炎ノ研究ニ
六八一	一〇	Glycerin-Bouillon	Glycerin-Bouillon
六八三	一	鏡見の所見	鏡檢的所見
”	九	幼若ノ成熟家兔	幼若、成熟家兔
”	第一表	A型組織球	小型組織球
”	”	同上	同右
六八四	五	病竈ノ周邊ノ	病竈ノ周邊ニ
”	一七	貪喰セルモノアルヲ以テ	貪喰セルモノヲ
”	二〇	小圓形ニナル	圓形ナル
六八五	五	(C)幼若ノ成熟家兔	(C)幼若、成熟家兔
六八六	一五	少數ノモノノ	少數ノモノニハ
”	一六	認め得ザルモ、	認め得ズ。

會報並ニ雜報

六八七	一	(C)幼若ノ成熟家兔	(C)幼若、成熟家兔
”	第三表	同上	同右
六八八	一七	鏡見的	鏡檢的
六八九	第四表	同上	同右
六九〇	二	肉眼のニ明サル	肉眼ニ明ナル
六九一	三	小氣管周圍	小氣管支周圍
六九三	八	鏡檢的ニハ指ニハ	鏡檢的ニハ肺ニハ
六九四	一	洗染セラル	淡染セラル
”	一三	幼若ノ成熟家兔	幼若、成熟家兔
”	一六	陥ルモノ多ク	陥ルモノ多ク
六九五	一	胞出現スル	胞ニハ色素顆粒出現スル
”	五	幼若ノ成熟家兔	幼若、成熟家兔
”	一六	Wintersitz; Goest,	Wintersitz; Joest
六九六	一	Ziegler. K.	Ziegler. K.
”	一	淋巴系器間	淋巴系器間
六九七	五	初感染ノ再感染ノ差	初感染、再感染ノ差
”	九	ノ成熟家兔	、成熟家兔
”	一〇	眼ヲ以テ見得ルモノ	眼ヲ以テ見得ザルモノ
六九八	四	淋巴裝置ノ	淋巴裝置
”	五	Bd. 63 u. 63	Bd. 63 u. 64
”	”	Bowman u.	Bowman a.
”	六	Virch. Arch.	Virch. Arch.
”	一	24) möckeberg	24) Mönckeberg
”	一四	27) 同	27) 同